

APNIC33レポート

□JPNIC IP事業部 奥谷泉



APNIC 33の特徴

- インドのNIR「IRINN」が新設
- Policy SIG: 全提案がIPv6に関する内容
- APNIC EC選挙: JPNIC前村含む現職3名が再選



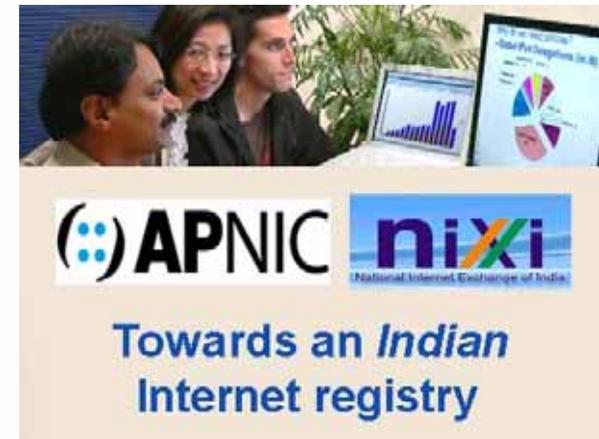
前村昌紀



Che-Hoo
Cheng(HK)



Ma Yan (CN)



開催期間: 2012年2月27日 ~ 3月2日
開催地: インド・ニューデリー
参加者: 573名(APRICOT参加者含む)

APRICOT
と併催

カンファレンスの様子



IRINN関係者のスピーチ



インターネットガバナンスセッション



オープニングレセプション



プレナリーセッション

プログラム構成

決議を行うセッション

ポリシーSIG:

ポリシー提案の議論

APNIC総会: **JPOPMに該当**

EC選挙、コンセンサス再確認

情報共有目的のセッション

業界動向:

「Plenary」、「インターネットガバナンス」、「AP IPv6 TF」

レジストリ動向:

「Global Reports(RIR動向)」、「APNIC Services」、「NIR SIG」

チュートリアル:

「資源管理」、「IRR」

BoF:

「ネットワークアビュース」

<http://meetings.apnic.net/33/program>



技術セッションはすべて
APRICOTに収容

Policy SIGでの議論

□ 今回はIPv6ポリシーの議論に注力

- IPv4関連の提案はゼロ

□ APNIC32からの継続課題

- 国単位でIPv6アドレスを確保したい:インド
- 国家規模のネットワークの構築のため「アドレスの長期予約」と「POP単位での割り振り」を認めてほしい:中国

□ 大きな課題は「中長期的なIPv6アドレス確保」

- インドや中国はインターネットが急速に発展しており、現在の基準では、5年以上先の運用を見据えた今後のユーザ分のIPv6を十分に確保できない

議論の争点

- 一部の経済圏において、長期的なアドレス確保のニーズがあることには一定の理解が得られている
- 予約(国単位/長期期間)よりも、既存の運用である Sparse Allocationの文書化により、長期的なアドレス需要にできないものか

提案と結果

コンセンサスの得られた提案	IPv6におけるSparse Allocationの文書化 (prop-102)
継続議論となった提案	大規模ネットワークのためのIPv6の予約 (prop-099) ()
	IPv6 PI割り当てにおけるマルチホーム要件の撤廃(prop-101)
棄却された提案	IPv6割り振り方法の最適化 (prop-098) ()

ARIN地域ではコンセンサス、
施行済

() APNIC32からの継続

「国単位でのIPv6アドレスの確保(prop-100)」も

APNIC32から継続議論だったが、提案者の意向により取り下げ

Sparse Allocationとは?

Sequential Allocation:

1 2 3 4 5 6 7 8



 = reservation

Sparse Allocation:

1 5 3 7 2 6 4 8



APNIC33におけるAPNICの発表資料より抜粋

影響・今後の対応

□ IPv6におけるSparse Allocationの文書化

- 文書化されることにより、追加割り振りでのIPv6アドレスレンジがAPNICで選定される仕組みを申請者にも共有
- 現在の運用の明文化のため、変更点はない

- APNICでの施行は決定(2012年5月)、文書公開待ち
- JPNICでも対応する方向で検討

□ 継続議論となった提案2点はAPNIC34で議論予定

- 中国やインドなど、成長し続けている経済圏における長期的なIPv6の需要にどう対応していくのかが大きな課題

継続検討課題

□ 国単位でのアドレス確保

- 一度取り下げられたが、ニーズは完全にはなくなってはならず、今後の提案再提出に注視する必要あり
- 適性な確保サイズの判断、国単位でのブロッキングリスクなどが懸念点

□ 5年先のアドレス予約、POP単位での割り振り

- POP単位で割り振っても5年後には予約空間をすべて割り振られ、連続した1プレフィクスに集約可能と提案者は主張
- 実際は計画通りいかずにPOP単位で経路広告→経路増加につながる懸念が残る
- 一方、これが通らないと国家規模のIPv6ネットワーク構築が進まない

□ IPv6 PI割り当てにおけるマルチホーム要件撤廃

- 経路への影響がどうなるかー経路数をAPNICでモニターすることを条件に施行の方向で議論中

- IPv4との違いは「完全新規の構築ではない」、「長期的なアドレス確保を必要とするネットワークや国がある」
- IPv6ポリシーの発想自体を見直すべきなのか

まとめ

- APNIC33はIPv6ポリシーの見直し議論に注力

- Sparse Allocationの運用が文書化されることで、IPv6追加割り振りにおけるAPNICでのアドレスレンジの選定方法を誰もが確認できるようになる

- 継続議論となったIPv6ポリシーの見直しは、経路広告などへの影響もある可能性があり、運用への影響も含めた検討が必要
 - 次回APNIC34に向けて議論を進めていきましょう

その他

□ APNICカンファレンスのJPでのリモートハブ

- APNICカンファレンスのリモートハブを設置し、現地に行けない人も議論やコンセンサス確認に参加できるようにする仕組み
- リモートハブ会場に参加者が集まり、そこと本会場でカメラを切り替えながら議論・コンセンサス確認を進める
- APNICではAPNIC 34に向けて継続検討中 - 今後ポリシー策定プロセスに取り入れることも視野に入れている

□ 日本でAPNICカンファレンスのリモートハブを運用するニーズはあるか、是非お聞かせください

Q&A

